

月刊 介護保険

介護に携わる人の
応援マガジン

特集

介護職員処遇改善に 新たな加算を創設

社保審・介護給付費分科会

2015

1

vol. 227

現地ルポ—自治体編

フィードバックを重視した地域ケア会議を開催
神奈川県大磯町の取り組み

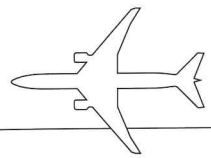
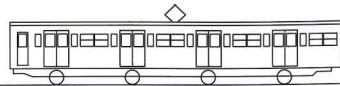
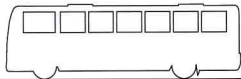
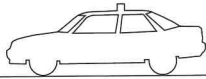
現地ルポ—事業者編

“マイホーム”のようなサ付き住宅
サービス付き高齢者向け住宅「わかたけの杜50」
(神奈川県横浜市)

仕事に役立つ! 実務解説

制度改正事項の内容をあらためて説明
厚労省が全国介護保険担当課長会議開催





第 22 回

街

へ出よう!

「地域交通の活用で移動をスムーズに」

生まれ変わる ユニバーサルデザイン

先日、知人から「空港などの観光施設に設置する予定の車いすがあるので、見に来てほしい」と頼まれ、観光庁へ出向きました。関係者で立ち話をしていたところ静かに現れたのは、美しいデザインの電動車いすでした。話を聞くと、自動車やエレクトロニクスなど大手メーカー出身の若い技術者が一からデザインを手がけた製品で、テレビでもたびたび登場している話題の新作でした。

これまで電動車いすというと、ジョイスティックやハンドル式のシニアカーが主流でしたが、メーカーに若い感性が入ることでデザインと操作性が高まり、車いすのイメージが大きく変わりました。担当者の話では、すでに国際市場にもデビューしており、福祉機器という位置づけではなく、ものづくりのコンセプトはパーソナルモビリティ（1人乗りの移動機器）ということで、納得させられました。美しいデザインの車いすに乗ることもひとつの個性として、ある種の自己主張を感じることができたからです。

同様に車両にもさまざまな生活ニーズのバリエーションに応えるユニバーサルデザインを採り入れたものが増えています。福祉車両はもともと、療養中の患者や要介護者の通院、通所など近距離の移動を前提にしており、安全性や機能性が重視され、これまで乗り心地については二の次といった感じでした。

車種については、移動目的にあわせた仕様になっている介護式のもの、障がいがあってもアクティブに過ごしたい人向けの自走式の2種類があります。介護式の車両については、重装備のリフト付きのものから、乗降がしやすいスロープ式のものなど、繰り返し改良が加えられてきました。一方、自走式のものには手元だけで操作ができるハンドルコントロールの車両や左足アクセルのもの、さらに足元のペダルでアクセルやブレーキ、ハンドル操作ができるものが用意されています。

また、介護式の車両には、車いすを乗降させる際の後退防止機能や巻き上げ式のベルトがついたものが登場するなど、介護する家族にも優しく便利な機能が加えられ、スロープの角度や車いすの固定方式にも操作性の改善がみられます。安全性の向上に細かな配慮がなされ、非力な老々介護の家族でも使いやすく工夫されていて、「日々の買い物や遠出するのが楽しくなった」という声を多く聞きます。

介護が必要な人の生活が身近になって、さまざまな生活シーンにあわせた機能やユニバーサルデザイン仕様がものづくり技術とともに向上しています。福祉目的に限らず、家族構成の変化や乗車する人の数にも柔軟にあわせて選択するなど、介護目的でないときにも使えるユニバーサルデザインの車両として生まれ変わろうとしています。



NPO法人
日本トラベルヘルパー協会
理事長 篠塚 恭一

PROFILE しのづか・きょういち

株式会社SPIあ・える倶楽部代表取締役。
平成18年にNPO法人日本トラベルヘルパー
(外出支援専門員)協会を設立。